

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

学校名	唐津市立鏡山小学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・本校の重点課題である「心の教育の充実」について、「友達を大切に良い関係を築き、楽しく学校生活を送る」評価項目に対し、96%の児童が肯定的に回答していることから、自他の生命を尊重する心・他者への思いやりや社会性など、豊かな心が定着しつつあると思われる。本年度の実践した取組を更によりよいものにして今年度も継続していきたい。 ・職員の働き方改革の推進について、「時間外在校等時間の削減」「年休取得率の向上」を改善できるように取組を進めた。職員全体への業務平準化及び休暇取得の推進を積極的に働きかけたところ、前年度と比較して両者とも改善傾向が見られた。しかし、改善の傾向に個人差があることから、今年度は職員個々に応じた働きかけの方法についても模索していきたい。	
--------------------------	--	--

2 学校教育目標	「考える」「頑張る」「認め合う」鏡山っ子の育成
----------	-------------------------

3 本年度の重点目標	・考える子 学びや経験を活かし、自ら課題に向かい解決していく〈課題解決に向かう力〉 ・頑張る子 自分から考えて行動し、目標に向かって粘り強く取り組む〈自ら考えやり抜く力〉 ・認め合う子 相手の気持ちに寄り添い、目標に向かってともに力を合わせて活動できる〈共感・協働できる力〉
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				
(1)共通評価項目									主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	○資質・能力を育成する授業についての共通理解・共通実践 ○家庭学習習慣の定着	○「R7年度学力向上対策評価シート【共通実践】に基づき、授業改善に努めることができましたか」の質問に対し、肯定的な回答をした教師90%以上 ○「わが子が家庭学習の目安（10分×学年＋10分）を達成できるように、サポートすることができていますか」の質問に対し、肯定的な回答をした保護者70%以上	・R7年度【共通実践】の内容と校内研究を連携させ、「学力向上に向けた授業改善アクションシート」を参考にしながら指導を充実させる。 ・目安の半分を達成できる質・量の宿題を出し、足りない分については自主学習や読書を推奨する。 ・年度当初の懇談会等で、家庭学習の目安について保護者への周知を図る。	・		・			学習指導部 研究推進部	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達を大切にしたい良い関係を築き、楽しく学校生活を送ることができていますか」の項目で肯定的な回答をした児童85%以上	・道徳科の「主として人との関わりに関すること」を取り扱う教材を用いて道徳の実践を行う。 ・参観日で道徳科の授業を公開する。	・		・		・	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当 各学年主任	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校は楽しいですか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童85%以上 ○認知したいじめの3か月以内での解消率100%を目指す	・月4回の学年会の中で毎回気になる子について情報を共有し、共通認識のもとに協力して組織的な生徒指導を行う。また生徒指導協議会にもつなげる。 ・児童の様子に目を配り、気になることは「校内いじめ防止対策委員会」を開き、組織的に対応していく。	・		・		・	生活指導部 各学年主任	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対し、肯定的に回答した児童80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童85%以上	・各種体験活動で、児童に活動の見通しをもたせ、学びの振り返りを仕組み、自己の変容に気付かせる。また、活動の過程において、児童に1日1回以上肯定的な声かけをするように意識する。	・		・		・	主幹教諭・教務主任	
	○◎児童が自分や友達の良さを認めることができる態度を育てる教育活動	○◎「自分や友達の良さをみつつけようとしていますか」の質問に対し、肯定的に回答した児童85%以上	・各学年グループまたは、低中高学年グループで学期ごとに人権に関する集会を行い、人権意識を高めるとともに、友達の良いところを見つける活動を充実させる。	・		・		・	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当 各学年主任	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ○睡眠時間を十分に確保し、生活リズムを整えている児童の育成	●「健康に良い食事をしていますか」の質問に対し、肯定的に回答した児童90%以上 ○「学年に相応しい睡眠時間を確保していますか」の質問に対し、肯定的に回答した児童90%以上	・食事の大切さ、食への感謝の気持ち、睡眠の大切さなどを理解するために、給食時間や道徳、学級活動の時間に学年に応じて指導を行う。 ・食と睡眠の実態を把握するために、年に2回アンケートを実施する。	・		・		・	健康指導部 学校栄養職員 養護教諭	
	○運動習慣の定着化	○「授業以外で、運動やスポーツに進んで取り組んでいますか」の質問に対して肯定的に回答した児童80%以上	・委員会活動などでスポーツチャレンジへの取組を推奨する。 ・運動できる場を確保するため、朝の時間の運動場や昼休みの体育館の開放を行う。	・		・		・	健康指導部 学校栄養職員 養護教諭	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間上限の遵守 ●年間20日の年次休暇のうち、年次休暇の取得日数14日以上	・職員会議・連絡資料等のデジタル化を進め、効率化を図る。 ・長期休業期間を中心に、諸会議・研修の運用や内容をスリム化するなどして、年次休暇取得を推奨する。	・		・		・	企画会	
	○教職員の連携促進	○「学年や部会など仕事が平準化できるように主体的に連携しようと考えていますか」の質問に対し、肯定的な回答をした職員80%以上	・業務の負担に偏りがないか、企画会、運営委員会で情報共有し、対応する。	・		・		・	企画会	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育への理解推進・支援体制の確立	○「職員同士で密に情報交換を行い、具体的な手立てをもって支援することができたか」の質問に対して肯定的な回答をした職員90%以上。 ○「特別支援教育に関する通信を読んでいる」保護者80%以上。	・特別支援担当者が年度当初に児童に向けて特別支援教育への理解啓発の話をする。 ・学級担任や生活支援員と密に情報交換を行い、児童の状況を適切につかみ、具体的な手立てをもって支援する。 ・保護者向けの通信を特別支援会より年5回程度発行し理解を図る。	・		・		・	特別支援部	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・			・		・		
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・			・		・		
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育										
5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・									